

## デーリー東北 2023年(令和5年)10月27日(金曜日) (2)

# 地域のIT人材育成へ



CESに向けて打ち合わせする（左から）瓜田壮一郎さん、新田彩奈さん、岡本信也取締役、立花拓也代表＝24日、八戸市

## 4年ぶり、県南事業者企画

# 米国際見本市に学生派遣

### 資金支援企業を募集

青森県南地方のIT事業者が企画し、米国ラスベガスで開催される世界最大級の家電IT見本市「CES」に青森県内の学生を派遣するプロジェクトが来年1月、4年ぶりに再開する。現地で触れた世界の最先端を地元に還元し、将来的には地

域の課題解決を担う人材を育てるのが狙い。企画を資金面で支援するサポーター企業を募っており、企画者は「地元企業が少しずつ資金を負担し合い、地元への思いがある若者を支援できれば」と話している。

（出川しのぶ）

企画したのは、IT企業「ヘプタゴン」（三沢市）の立花拓也代表（39）と「アイティコワーク」（八戸市）の岡本信也取締役（45）。2019、20年も学生を2人ずつ派遣していたが、その後は新型コロナウイルスで中断していた。今回、渡米するのは、レポートや面接を経て選ばれた八戸工大工学部システム情報工学科4年の瓜田壮一郎さん（22）＝中泊町出身＝と、八戸高専攻科電気情報システム工学科1年の新田彩奈さん（21）＝洋野町出身＝。瓜田さんは人工智能（AI）を使った言語処理、新田さんは中学生向けのプログラミング教材の開発を学んでいる。2人の旅費や見本市参加料は計70万円で、全額負担

する計画。IT企業に限らず、1社5万円で協賛するサポーター企業を募集している。サポーター企業側の要望があれば、学生が見本市で関係分野を調査し、レポートにまとめるという。

企画を通して、サポーター企業をはじめとした地元企業を学生に知つてもらう機会にもしたいという。立花代表は「これからのお仕事はITやデジタルが必要。サポート企業にも刺激になるレポートを期待したい」、岡本取締役は「学生には海外で得た情報や刺激してほしい」と話した。サポート企業に関する問い合わせは、岡本取締役 ||メールアドレスokamot@itcowork.co.jp ||へ。

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。